**発表の順番・流れ**

**1.はじめに（発表者：Hoang）**

　近年日本とベトナムの関係が深まっている。

　日本在住ベトナム人は増えていく。ベトナム人日本語学習者も増えていく。

　日本語を勉強するにはベトナム人にとって一番難しいのは漢字。漢字が2000字以上ある（N1レベル）。

　漢字については、「字が異なり読みが同じ」現象があって、ベトナム人にとっては難しい（書きわけがわからないから）。その現象は「異字同訓」と呼ばれる。

　次は、異字同訓の定義を確認する。

　沖森は、異字同訓について、「字義が相異なり、その用法も相違する漢字が訓を同じくする場合を『異字同訓』と呼ぶ」（沖森　2014、p.9）と述べている。

　山田は、異字同訓の問題について、「字形」、「音形」、「意味」の3項目の関係として整理している。すなわち字形が異なり音形が同じで意味が類似している語が異字同訓として書き分けの問題がある（山田　2014、p.14-15）。そして、例として山田は［作る／造る］、［長い／永い］を挙げている。一方で山田は、字形が異なり音形が同じで意味が非類似している語が「異字同音異義」であり（山田　2014、p.14)、つまり異字同訓ではないのである。

　（略）

　本論文では山田に従う。異字同訓は「異字同音異義」（じが異なり、読みが同じ、意味が似ている）と見なし、分析する。

　2014年に、文化審議会国語文学会は『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』を発表した。その報告には、異字同訓の使い分けの例を133組を取り上げている。

　（略）

**2.先行研究の検討（発表者：Hoang）**

　本論文では4個の辞書から、「かたい」の定義を取り出す。

　問題点としては、  
（略）  
である。

**3.資料と方法（発表者：Van）**

　資料としては、BCCWJからデータを抽出して分析する。方法としては、まず、レジスターに基づく分析、次は、共起する名詞に基づく分析、最後は、共起する動詞に基づく分析。

**4.分析と考察（発表者：Minh）**

　（略）

**5.結論（発表者：Van）**

　（略)

　今後の課題としては、本論文では「かたい」だけを研究した。『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』100組以上ある、それは次回に研究する。